

財 産 目 録

<b>I 資産総額</b>	10,464,370,558 円
内 基本財産	9,907,611,746 円
運用財産	556,758,812 円
<b>II 負債総額</b>	694,195,001 円
<b>III 正味財産</b>	9,770,175,557 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	40,651.08 m <sup>2</sup> 6,611,281,447 円
建物	22,306.66 m <sup>2</sup> 2,921,710,408 円
構築物	67 点 96,389,283 円
図書	65,652 冊 174,409,098 円
教具・校具・備品	2,297 点 50,814,760 円
その他	53,006,750 円
2 運用財産	
現金預金	461,036,627 円
その他	95,722,185 円
資 産 総 額	10,464,370,558 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	283,190,000 円
その他	67,652,129 円
2 流動負債	
短期借入金	88,130,000 円
その他	255,222,872 円
負 債 総 額	694,195,001 円
正味財産（資産総額－負債総額）	9,770,175,557 円

# 貸借対照表

平成 26 年 3 月 31 日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	9,975,073,412	10,105,555,393	△ 130,481,981
有形固定資産	9,854,746,697	9,983,221,573	△ 128,474,876
土地	6,611,281,447	6,611,281,447	0
建物	2,921,710,408	3,030,160,196	△ 108,449,788
その他の有形固定資産	321,754,842	341,779,930	△ 20,025,088
その他の固定資産	120,326,715	122,333,820	△ 2,007,105
流動資産	489,297,146	542,870,321	△ 53,573,175
現金預金	461,036,627	479,445,034	△ 18,408,407
その他の流動資産	28,260,519	63,425,287	△ 35,164,768
資産の部合計	10,464,370,558	10,648,425,714	△ 184,055,156

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	350,842,129	439,313,314	△ 88,471,185
長期借入金	283,190,000	368,720,000	△ 85,530,000
その他の固定負債	67,652,129	70,593,314	△ 2,941,185
流動負債	343,352,872	372,450,798	△ 29,097,926
短期借入金	88,130,000	88,730,000	△ 600,000
その他の流動負債	255,222,872	283,720,798	△ 28,497,926
負債の部合計	694,195,001	811,764,112	△ 117,569,111
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号基本金	15,147,675,205	15,067,495,886	80,179,319
第 4 号基本金	213,000,000	213,000,000	0
基本金の部合計	15,360,675,205	15,280,495,886	80,179,319
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	5,590,499,648	5,443,834,284	△ 146,665,364
消費収支差額の部合計	△ 5,590,499,648	△ 5,443,834,284	△ 146,665,364
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	10,464,370,558	10,648,425,714	△ 184,055,156

# 資金収支計算書

平成 25 年 4 月 1 日から  
平成 26 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	451,985,000	453,816,200	△ 1,831,200
手数料収入	10,117,000	10,531,210	△ 414,210
寄付金収入	13,602,000	14,849,879	△ 1,247,879
補助金収入	323,252,000	323,250,884	1,116
国庫補助金収入	47,646,000	47,646,000	0
地方公共団体補助金収入	258,404,000	258,403,584	416
その他補助金収入	17,202,000	17,201,300	700
資産運用収入	12,112,000	13,446,012	△ 1,334,012
資産売却収入	0	2	△ 2
事業収入	9,220,000	6,717,188	2,502,812
雑収入	14,968,000	15,252,415	△ 284,415
借入金等収入	22,600,000	22,600,000	0
前受金収入	206,235,000	199,847,200	6,387,800
その他の収入	69,189,000	67,846,345	1,342,655
資金収入調整勘定	△ 222,097,000	△ 224,674,970	2,577,970
前年度繰越支払資金	479,445,000	479,445,034	△ 34
収入の部合計	1,390,628,000	1,382,927,399	7,700,601
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	461,329,000	463,399,032	△ 2,070,032
教育研究経費支出	191,827,000	181,325,999	10,501,001
管理経費支出	112,137,000	113,742,330	△ 1,605,330
借入金等利息支出	8,511,000	8,509,602	△ 1,398
借入金等返済支出	108,730,000	108,730,000	0
施設関係支出	690,000	682,500	7,500
設備関係支出	7,723,000	7,663,154	59,846
その他の支出	56,689,000	59,480,973	△ 2,791,973
予備費	13,000,000	0	13,000,000
資金支出調整勘定	△ 20,814,000	△ 21,642,818	828,818
次年度繰越支払資金	450,806,000	461,036,627	△ 10,230,627
支出の部合計	1,390,628,000	1,382,927,399	7,700,601

## 消費収支計算書

平成 25 年 4 月 1 日から  
平成 26 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	451,985,000	453,816,200	△ 1,831,200
手数料	10,117,000	10,531,210	△ 414,210
寄付金	13,602,000	15,203,702	△ 1,601,702
補助金	323,252,000	323,250,884	1,116
国庫補助金	47,646,000	47,646,000	0
地方公共団体補助金	258,404,000	258,403,584	416
その他補助金	17,202,000	17,201,300	700
資産運用収入	12,112,000	13,446,012	△ 1,334,012
事業収入	9,220,000	6,703,565	2,516,435
雑収入	14,968,000	17,605,520	△ 2,637,520
帰属収入合計	835,256,000	840,557,093	△ 5,301,093
基本金組入額合計	△ 79,819,000	△ 80,179,319	360,319
消費収入の部合計	755,437,000	760,377,774	△ 4,940,774
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	461,329,000	463,399,032	△ 2,070,032
教育研究経費	317,639,000	305,448,089	12,190,911
管理経費	125,910,000	126,809,152	△ 899,152
借入金等利息	8,511,000	8,509,602	1,398
資産処分差額	0	527,029	△ 527,029
徴収不能引当金繰入額	0	2,350,234	△ 2,350,234
予備費	13,000,000	0	13,000,000
消費支出の部合計	926,389,000	907,043,138	19,345,862
当年度消費支出超過額	170,952,000	146,665,364	
前年度繰越消費支出超過額	5,443,834,000	5,443,834,284	
翌年度繰越消費支出超過額	5,614,786,000	5,590,499,648	

平成26年 5月27日現在

## 村田学園 平成25年度事業報告書

自平成25年4月1日 至平成26年3月31日

### 1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科等

- ① 東京経営短期大学  
経営総合学科
- ② 村田女子高等学校  
普通科  
商業科
- ③ 村田女子中学校

(2) 当該学校・学部・学科等の入学実員数・総実員数（平成25年5月1日現在）

学校名	学部・学科等名	入学定員数	入学実員数	総定員数	総実員数
東京経営短期大学	経営総合学科	150人	110人	330人	228人
村田女子高等学校	普通科	80人	71人	240人	202人
	商業科	82人	66人	246人	170人
村田女子中学校		80人	7人	240人	27人
合計		392人	254人	1,056人	627人

(3) 役員・評議員・教職員の概要等（平成25年5月1日現在）

#### ① 役員概要

定数・人数	区分	職名	担当職務	常勤/ 非常勤	氏名
理事 定員9人以上13人以内 (実員9人)	第1号	理事長	総理	常勤	岡部 徳三
		常務理事	高校中学	常勤	伊藤 淑子
	第2号	常務理事	高校中学	常勤	倉田 政子
			財務	常勤	細谷 宣夫
			短期大学	常勤	寺村 晴充
	第3号	理事	財務 経営改善	非常勤	竹田 剛志
			業務 経営改善	非常勤	摺木 崇夫
			総務	非常勤	太田 宗男
総務			非常勤	中村 良彦	
監事		監事		非常勤	真田 剛

定員2人（実員2人）				非常勤	清澤清一郎
------------	--	--	--	-----	-------

② 評議員の概要

定数・人数	区分	常勤/ 非常勤	氏名
評議員 定員19人以上27人以内 (実員21人)	第1号	常勤	岡部 徳三
		常勤	伊藤 淑子
	第2号	常勤	倉田 政子
		常勤	寺村 晴充
		常勤	石川 初男
		常勤	篠崎 誠二
	第3号	常勤	細谷 宣夫
		常勤	今田 茂司
		常勤	四條 英俊
	第4号	非常勤	竹田 剛志
		非常勤	摺木 崇夫
		非常勤	太田 宗男
		非常勤	中村 良彦
		常勤	佐久間 康
		常勤	宮谷 聡美
		常勤	泉谷 尚俊
常勤		二渡 道雄	
非常勤		助川 幸彦	
非常勤		相田 修	
非常勤	飯塚美知男		
非常勤	平柳 雅三		

③ 教職員の概要

	教 員			職 員		
	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計
東京経営短期大学	14人	20人	34人	14人	8人	22人
村田女子高等学校	28人	12人	40人	5人	4人	9人
村田女子中学校	8人	1人	9人	3人	1人	4人
法人本部	—	—	—	1人	0人	1人
合計	50人	33人	83人	23人	13人	36人

2. 財務の概要

帰属収支経年比較

(単位：円)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
帰属収入合計	840,557,093	918,957,813	956,587,410
消費支出合計	907,043,138	985,530,047	982,331,767
帰属収支差額	△ 66,486,045	△ 66,572,234	△ 25,744,357

### 3. 事業の概要

#### (1) 東京経営短期大学

##### 1. 教育・研究

- (1) ゼミナール担当者会議を適宜開催し、学生の学習・生活面の情報が教員間で共有できたことで、学生指導に資することができた。
- (2) キャリア支援として、平成 25 年度から共通選択必修科目群（「職業選択」、「職業選択実務」、「キャリアデザイン」、「就職の数学」、「時事経済」）が追加され、同科目群の受講生が増加したことで、就職支援面で一定の効果があった。
- (3) 各コース推奨資格・検定合格率アップのための授業回数の追加（補講の強化）をはかり、概ね一定の合格率は維持できた（下表）。
- (4) カリキュラムのスリム化を平成 24 年度に行い、学生の履修状況を見極めながら継続的に検討を進める。
- (5) 一般学生の基礎学力向上のため毎回のゼミナールで「一般教養ミニテスト」を実施した。その成績をゼミナールに反映させることで、過年度よりも学習成果が向上した。  
外国人留学生は、ゼミナール内で「日本語能力検定 N1、N2」の模擬テストを課し、同検定を推奨した結果、受験者数は増加した。
- (6) 研究紀要第 22 巻（全 88 頁、論文 5 編、研究ノート 1 編）を発刊した。

#### 平成 25 年度 各種検定試験等の合格状況（1・2 年合計）

主な検定	平成 25 年度 実績			平成 24 年度実績	平成 23 年度実績	目標 合格 %	主とする コース
	合格 者数	受験 者数	合格 率%	合格率%	合格率%		
全経 税務 所得 1 級	3	4	75	77	75	100	会計税務
〃 所得 2 級	9	12	75	58	82	100	
〃 所得 3 級	16	19	84	87	87	100	
〃 法人 3 級	11	15	73	33	88	100	
〃 消費 1 級	3	3	100	64	100	100	
〃 消費 2 級	10	13	77	58	78	100	
〃 消費 3 級	16	17	94	100	96	100	
全経 簿記 1 級会計	6	10	60	26	100	90	会計税務 他
〃 1 級工業簿記	8	8	100	89	100	95	
〃 2 級	10	19	53	63	83	60	
〃 3 級	27	33	82	70	82	70	
日商 簿記 1 級	0	5	0	50	-	-	会計税務 他
〃 2 級	6	21	29	33	58	50	会計税務 他
〃 3 級	10	32	31	36	33	35	会計税務 他
秘書検定 準 1 級	1	1	100	40	25	30	生活心理 企業経営
〃 2 級	16	41	39	46	66	70	
〃 3 級	20	27	74	85	66	80	
メディカルマーク	13	18	72	42	41	60	医療秘書
医事オペレータ	10	11	91	80	100	90	
ケアマーク	4	10	40	38	54	60	
調剤報酬請求事務認定	-	-	申請	申請	申請	-	

			9名	7名	20名		
ドクターズクラーク	4	7	57	29	-	40	
医療秘書実務技能検定 3級	7	13	54	14	-	-	
日商 販売士 2級	0	0	0	100	-	-	企業経営
日商 販売士 3級	7	8	88	56	20	50	生活心理
色彩検定協会 色彩検定 2級	0	2	0	75	63	100	生活心理
色彩検定協会 色彩検定 3級	15	18	83	45	85	85	
メンタルヘルス・マネジメントⅢ種	3	6	50	50	100	60	生活心理
認定 アシスタント・ホスピタリティ・コーディネータ	-	-	申請 1名	申請 10名	申請 8名	-	生活心理 企業経営
ファイナンシャルプランナーFP2級	-	-	-	100	-	-	会計 税務 他
ファイナンシャルプランナーFP3級	0	0	0	100	-	100	
スノーボードバッジテスト 2級	2	2	100	-	-	-	コース 共通
スノーボードバッジテスト 3級	6	6	100	100	100	100	
スノーボードバッジテスト 4級	10	10	100	70	100	100	
日本語能力検定(留学生) N1	3	26	12	23	-	-	留学生 共通
日本語能力検定(留学生) N2	2	5	40	20	-	-	

## 2. 学生支援

(1) キャンパス環境の改善策として、4階研究室前に自習コーナーを増設した。複数の学生への同時相談が可能になった。

(2) 平成 25 年度卒業生の進路結果

平成 25 年 10 月 1 日時点における本学の一般学生就職内定率は全国短大平均を上まわったものの、その後伸び悩んだが、93.75% (平成 26 年 5 月 1 日文科科学省向け届出数値) となった。

### ・一般学生 84名

就職希望 64名 決定 60名、未決定 4名 (決定率 93.8%)

進学 4名 (四大編入 1名 短期大学 1名 専門学校 2名)

その他 16名 (進学予定者 2名、派遣等一時的職業従事 4名、家業従事 1名、静養 1名、進路未決定 8名)

### ・外国人留学生 18名

就職希望 10名 決定 6名、未決定 4名 (決定率 60.0%)

(未決定者 4名は、特定活動ビザを取得して引き続き就職活動中)

帰国 8名

(3) 資格検定への動機付けとして、学長奨励賞と資格奨励賞の受賞を励行した。

平成 25 年度の受賞者数：学長奨励賞 8名 資格奨励賞 55名

(4) 社会人基礎力としての日常の挨拶、時間厳守は教職員全員で啓発している。



(5) 学生のキャンパスライフの活性化の面は、年2回「学生アンケート」を実施している。授業、施設等についてのアンケート結果から、学生の声を授業、キャンパス環境の改善に生かしている。

### 3. 学生募集

(1) 入学相談室を中心に他の教職員の応援も得て、高等学校と日本語学校の訪問を精力的に行い、本学の紹介とオープンキャンパス・体験入学案内をPRした。

[学校訪問]	高等学校 711 校 (回)、日本語学校 161 校 (回)	計 872 校 (回)
[ガイダンス]	高等学校 34 校、日本語学校 2 校	計 36 校
[会場ガイダンス]	一般学生 30 会場、外国人留学生 15 会場	計 45 会場
[オープンキャンパス]	16 回	参加延べ人数 180 名 (前年比 -3 名)
[体験入学]	2 回	参加延べ人数 35 名 (前年比-25 名)

(2) 企業派遣による社会人（1名）を受け入れた。

### 4. 地域貢献

(1) 平成 25 年度のオープンカレッジとしての公開講座 14 講座開講した。一般聴講生は 36 名であった。

(2) 高大連携は平成 24 年度より 2 校と提携を結び、平成 25 年度は 5 名（昨年比 +3 名）の聴講生があった。

### 5. 施設・設備

(1) 老朽化に伴うコンピュータ教室（208 教室）及び事務室 PC 機の更新を行った。

(2) 安全管理体制の一環として、非常用放送設備の改修を行った。

(3) 印刷機及びコピー機を更新しより効率的な教材印刷環境を整備した。

### 6. その他

(1) 各種委員会、各センター、事務各部等の平成 25 年度活動報告会及び平成 26 年度計画発表会を平成 26 年 5 月 7 日に開催した。

(2) 平成 25 年 9 月 7 日、「全 20 期卒業生合同同窓会」（於：ホテルオークラ東京ベイ）を実施した。参加者総数 154 名であった。

(3) 保護者の集いを平成 26 年 2 月 15 日に開催した。

#### (2) 村田女子高等学校

##### 1. 本校が育成する「Yes, I Can.」の明確化

全教職員が本校の教育理念である「社会に貢献できる女性の育成」を念頭に、学習活動・ホームルーム活動・クラブ活動・学校行事等のあらゆるシーンを通して、生徒の中のまだ眠っている可能性を引き出し、「Yes, I Can. ～ 私にはこれができます！」につなげるような指導を展開してきた。こうした働きかけは、生徒一人ひとりの心の中の“やれば出来る”

という自信につながっているものと確信している。

## 2. 「面倒見の良い村田」と同時に、「進学のカムカム」へ

「面倒見の良いカムカム」は広く定着している。高校卒業時の進路指導結果に寄せる保護者や中学校や塾の先生方の信頼は厚く、これがカムカム女子高等学校の存在理由へとつながっているものと確信している。この3月に卒業した117名の生徒たちは、しっかりと自らの進路を決め、次のステップへと巣立っていった。この厳しい就職環境の中にあっても就職希望者14名は2月初旬までに内定をいただいた。生徒の努力の成果ではあるが、ここにこそ「面倒見の良い、就職に強いカムカム」の伝統が生きていると言える。また、進学実績も期待に答えている。数字で言うならば、大学・短期大学進学者数が初めて75%を超えた。本校の進学指導は、「一人ひとりの個性・特性に合わせたキャリアデザイン支援」が根底にあり、基礎学力をしっかりと身につけた上で、将来の人生設計に合わせて、その選択肢を広げられるように行われている。その結果、進学を志した生徒たちやその家庭からは大いに満足を現す言葉を頂けた。

### 平成25年度の卒業生の進路状況

大学	72名
短期大学	18名
専門学校	13名
就職	14名
家事・その他	0名
合計	117名

\* 具体的な進路一覧は別紙の通りである。

二科四コースにおける目標を次の通りとし、ほぼそのように達成できている。

普通科	}	Advanced Course (一貫コース+特進コース)
		国公立、私立上位校への現役合格を目指す
商業科	}	Standard Course
		普通科ながら資格取得にもチャレンジし、推薦、A0入試で現役合格を目指すと共に、他校(都立の普通科)との差別化を図り、就職実績を残す。(今年度の就職者は5名であった。)
普通科	}	Advanced Course
		2年生までに1級資格を取得、資格推薦で国公立、私立上位大学を目指す。
商業科	}	Standard Course
		検定試験に着実に合格させ、推薦、A0入試で現役合格を目指すと共に、就職においては100%を目指す。

## 商業科検定試験 3 種目以上 1 級合格者の状況

5 種目 1 級合格者	2 名
3 種目 1 級合格者	6 名
計	8 名

### 3. 広報活動の展開

平成 25 年度に行った主なる広報活動は以下の通りである。

- ・ オープンスクール 3 回
- ・ 学校説明会 8 回
- ・ 塾対象説明会 2 回
- ・ 中学校で行う進路説明会 30 校
- ・ サクセス面接講座 39 校
- ・ 外部入試相談会 35 回
- ・ 中学校訪問数（春、秋共に約 500 校）
- ・ 訪問塾 約 500 塾
- ・ 女子小中学生招待珠算大会

### 4. 目標生徒確保数

130 名 → 155 名

上記の数字を目標としたが、結果的には、155 名（内進生 8 名）の入学者となった。その内訳は、商業科 69 名、普通科 86 名。また、普通科 Advanced コースへの入学者は 19 名。毎年のものであるがこのコースへの入学者は横ばい状態であり、今後の学校力アップのためにも、更なる募集対策が強化されなければならない。結果的には目標数値は超えられたが、応募者数は昨年より減少しており、厳しい状況に変わりはない。この状況の打破のための広報活動が必須となる。例え併願校であれ「選ばれる学校」でなくてはならない。この考えに添って、今後も更なる研究を重ね、受験生の増大へとつなげたい。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
学校見学者	572 名	653 名	600 名
応募者数	315 名	367 名	344 名
入学者数	123 名	137 名	155 名

### (3) 村田女子中学校

#### 1. 教育方針と目標

(1) 平成 25 年度より、校名を「村田女子中学校」と変更した。校名変更により 83 年の伝統ある「村田女子高等学校」との一体化を印象付ける 1 年とした。

(2) 本校が育成する生徒像の明確化

「なぜ?」「どうして?」という疑問を持ち、論理的な仮説をたて、実験・観察を通して結論を見つけ出すことに感動し、その感動をあらゆる学習において楽しさへと変え、何事にも能動的に取り組める女性の育成を目指すものである。このことを教職員は常に念頭におき、日々の生徒指導にあたった。

(3) 学習指導

- ・ 朝学習、放課後講習、学習ノートなどを通して家庭学習の定着を図った。
- ・ 英語検定試験・漢字検定試験の合格に向けての支援をした。
- ・ 全国模擬試験（ベネッセ学力推移テスト）を利用し、学力の向上を図った。
- ・ 夏期講習・冬期講習・春期講習の充実を図った。

(4) 「コミュニケーションプログラム」の充実

カウンセリング技法の一つである構成的グループエンカウンターを用いた「コミュニケーションプログラム」は、生徒のコミュニケーション能力、自己肯定感を高め、より良い集団づくりに効果を上げている。明治大学の諸富祥彦教授のご指導の下、2ヶ月に1回のペースで中学担当者がミーティングを行った。また、全教職員対象の研修会も実施した。

2. 広報活動の指標と具体的な広報活動

広報活動の基本は校内での教育と環境であると考え、その充実を図った。また、受験生とその保護者にとって本校が第一志望になるための広報活動をおこなってきた。しかし平成24年度・25年度の一桁の入学者数が大きなマイナス要因となってしまった。

目標 生徒確保数 10名 → 4名

	24年度	25年度	26年度
出願者	17名	12名	9名
受験者	13名	9名	7名
合格者	9名	8名	5名
入学者	4名	7名	4名

3. 広報活動の展開

- ・ 塾対象説明会 2回
- ・ 学校説明会 3回
- ・ 個別相談会 2回
- ・ 村田杯（バスケットボール）10月
- ・ 外部団体主催入試相談会
- ・ 全教員による塾訪問
- ・ 入試問題解説会 2回
- ・ 女子小中学生招待珠算大会 5月
- ・ Murata Cup（サッカー）1月
- ・ オープンスクール 4回
- ・ 入試直前解説会 2回

以 上


# 監査報告書

平成26年 5月26日

学校法人 村田学園  
理事会 御中  
評議員会 御中

学校法人 村田学園

監事 真田 剛 

監事 清澤 清一 

私たちは、学校法人村田学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第14条の定めに基づき、同学校法人の平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）における事業報告書、財産目録及び計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）を含め、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行いました。

## 1. 監査方法の概要

私たちは監査にあたり、理事会及びその他の重要な会議に出席するほか、理事からの事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査し、また会計監査人である明翔監査法人との連携をとり、必要と思われる監査手続を実施しました。

## 2. 監査の結果

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法令及び寄附行為に従い、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関しては不正の行為がなく、法令及び寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上